

年間授業計画

成瀬 高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科 芸術

科目 音楽 I

単位数 2 単位

対象学年組 第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書 (Tutti+)

教科 芸術

の目標

【知識及び技能】基本的な表現・および解釈に必要な知識と、基本的な演奏技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠をもって評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目 音楽 I

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な読譜力を身につける。 基本的な歌唱法を身につける。 基本的なキーボードおよびギターの奏法を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜から求められるべき表現を考える。 他人に自分の考えが伝わるように考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な表現について、いくつかの可能性を自ら考え、試みることができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		歌	器	創							
1 学 期	<歌唱> 歌唱にかかわる基本的な身体の使い方を復習し、身体に負担なく声を出すことを体得する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 	○			【知識・技能】 身体の仕組み・身体の使い方を実際に自らの体で理解する。 【思考・判断・表現】 他人の動き方を見て、動きと声がどのように連動しているか考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の身体と表現について関心をもって観察しているかどうか。	○	○	○	4	
	<器楽> すべてのジャンルに共通する音楽の三要素のうち、「リズム」に焦点を当てて学習する。 リズム譜の読み方・感じ方・表現方法・他人との合わせ方等、客観的に表現を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 		○	○	【知識・技能】 リズムとは何かを理解し、楽譜を読んですぐ表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 リズムを正しく演奏しているか、リズム感を感じて表現しているかどうか判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の表現について様々な角度から考えているかどうか。			○	12	
	<鑑賞> 鑑賞とは何を聴き取るのか、ポイントについて理解し、実際に聴き取れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 				【知識・技能】 リズムとは何かを理解し、楽譜を読んですぐ表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 リズムを正しく演奏しているか、リズム感を感じて表現しているかどうか判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の表現について様々な角度から考えているかどうか。	○	○		4	
	<音楽理論> 「音楽作品を深く理解するための手立て」としての楽曲構成のあり方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 				【知識・技能】 基本的な楽曲構成について知る。 【思考・判断・表現】 ある曲の楽曲構成が全体の内容を伝えるためにどのように機能しているか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽曲構成を無味乾燥な理屈としてではなく、「どのような表現を生み出しているか」という観点から主体的に感じているかどうか。			○	4	
2 学 期	<歌唱> ①1曲を通して、説得力ある表現で歌えるようにする。 ②二重唱について、両パートとも歌えるようにし、相手の音を聴きながら演奏できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 	○			【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌えるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音と自分の出している音が合っているかどうか、バランスはどうか聴いて判断する。 ある曲の楽曲構成が全体の内容を伝えるためにどのように機能しているか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 2人以上で1つの表現を作り出そうと努力しているかどうか。			○	10	
	<器楽> ①ギターおよびキーボードの基本的な奏法について学ぶ。 ②「他人と合わせる演奏」に必要なことを考え、ギターのみによる2～3人程度のアンサンブルを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 		○		【知識・技能】 正しい身体・手の使い方をし、正しく読譜できるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音を聴き取り、タイミングやバランスがよいかどうかを判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数人で1つの表現を作り出そうと努力しているかどうか。			○	18	
3 学 期	<創作> ①設定された条件の中で、2～4小節程度の旋律を作ることができる。 ②聴く人の感情に沿った流れのある旋律を作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 			○	【知識・技能】 過去の音楽作品がどのような旋律の作法によっているかを学ぶ。 【思考・判断・表現】 人間の様々な感情の流れに沿った旋律になっているかどうかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、聴き手を念頭において作曲しているかどうか。			○	6	
	<器楽> キーボードを中心に、異なるジャンルでのアンサンブルを試みる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 補助教材 (プリント) ICT 1人1台端末 		○		【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解し、再現できるようにする。 【思考・判断・表現】 キーボードで出せる様々な音色を試行し、曲の性格をより打ち出せるようなものを選ぶ。また、各パートのバランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の構成を考え、どのようなバランスやアレンジが			○	12	
										合計	70

年間授業計画

成瀬 高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術 科目 選択音楽

教科：芸術 科目：選択音楽 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

使用教科書：（音楽Ⅱ Tutti+ ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】基本的な技法や表現方法を復習し、さらに他人と合わせて演奏し、説得力がもてるものとする。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠をもって評価・判断し、新たな段階へ課題を設定できる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、技術面・思考面および聴取面から取り組もうとしている。

科目 選択音楽 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・基本的な読譜力・歌唱法を定着させる。 ・キーボードおよびギターによるコードネーム奏法を身に付ける。 ・1人で同時に複数の演奏ができるようにする。	・楽譜から求められるべき表現を考える。 ・他人に自分の考えおよび表現が伝わるように、根拠をもって客観的に考える。	・説得力のある演奏に必要な技術・表現が可能になる方法について、自分および他人とのやり取りの中で考えられるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		歌	器	創							
1 学 期	<歌唱> 歌唱にかかわる基本的な身体の使用方を復習し、身体に負担なく声を出すことを体得する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○	【知識・技能】 身体の仕組み・身体の使用方を実際に自らの体で理解し、言語で状況を具体的に講評できるようにする。 【思考・判断・表現】 他人の動き方を見て、動きと声がどのように連動しているか考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の身体と表現について関連性を考えながら観察しているかどうか。	○	○	○	2	
	<器楽> ・ギターの基本奏法を復習し、コードネームの原理と奏法について学ぶ。 ・歌いながらギターのコードネームが演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 ギターによるコードネームを正確に押さえ、歌いながら演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 正確な音が響いているかどうか判断し、かつ旋律にふさわしいストロークを考えて表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の音の響きや表現について、様々な角度から講評し、考える。			○	6
	<鑑賞> 2つ以上の演奏を比較し、大きく技術および表現の2つにわけて具体的に批評できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 旋律や曲の構造を楽譜から正確に理解する。 【思考・判断・表現】 楽譜から読み取った情報がどのように表現されているか、具体的に判断しながら聴く。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現の差異がどのような部分について生じているか、その表現効果について考える。	○	○		2
	<音楽理論> 「音楽作品を深く理解するための手立て」として、歌詞と楽曲構成を合わせて考えられるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 自ら楽曲を大きな部分に分け、それぞれの箇所全体の機能を理解する。 【思考・判断・表現】 楽曲構成が全体の内容と個々の箇所がどのように関連性を持つか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽曲構成に沿って説得力のある演奏かどうか、自ら判断できるようにする。	○	○		2
2 学 期	<歌唱> ・二〜三重唱について、相手の音を聴きつつ、響きやバランスを把握しながら演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○	【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌い、相手を合わせられるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音と自分の出している音の響き具合や、バランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数でまとまった1つの表現を作り出すために考え、努力する。			○	5	
	<器楽> ・キーボードの基本奏法を復習し、コードネームの原理と奏法について学ぶ。 ・歌いながらキーボードのコードネームが演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 キーボードによるコードネームを正確に押さえ、歌いながら演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 正確な音が響いているかどうか判断し、かつ旋律にふさわしいアレンジを考えて伴奏する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の音のアレンジについて、様々な角度から講評し、考える。			○	9
3 学 期	<創作> ①設定された条件の中で、2〜4小節程度の旋律を作ることができる。 ②聴く人の感情に沿った流れのある旋律を作ることができる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○	【知識・技能】 過去の音楽作品がどのような旋律の作法によっているかを学ぶ。 【思考・判断・表現】 人間の様々な感情の流れに沿った旋律になっているかどうかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、聴き手を念頭において作曲しているかどうか。	○	○	○	3	
	<器楽> キーボード・ギターを中心に、メロディをコードネームを必須としたアレンジによるアンサンブルを試みる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解し、再現できるようにする。 【思考・判断・表現】 キーボードで出せる様々な音色を試行し、曲の性格をより打ち出せるようなものを選ぶ。また、各パートのバランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の構成を考え、どのようなバランスやアレンジがよいか考え	○	○	○	6
										合計	35

年間授業計画

科目名 (単位数)	音楽Ⅲ(2)	教科書:Joy of Music
対象学年	3	副教材1:
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	外国曲(イタリア語・英語等)・日本歌曲について意味を理解しながら表現できるようにする。 ギターまたはピアノで任意の1曲を演奏できるようにする。 ギターまたはピアノで弾き歌いができるようにする。 音楽作品と社会とのかかわりを多角的に理解できるようにする。 これまで学んできた経験をもとに「編曲」ができるようにする。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	読譜の基礎 ギターによるコードネーム復習 編曲について 編曲について	これまでの読譜上の基礎復習 「夢の中へ」コードネームによる弾き歌い ギターまたはキーボードによるアレンジ例 「夢の中へ」アレンジ
1学期期末 (26)	編曲について キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム キーボードによるコードネーム	「夢の中へ」アレンジ 昨年度の復習 全音・半音・メジャー・マイナーコードの性格 長3度・短3度・セブンスコード・オンコード デイミニッシュ/オーギュメントコード If we hold on togetherの伴奏をコードネームで考える If we hold on togetherの伴奏をコードネームで考える
2学期中間	独唱 独唱 重唱 重唱 キーボードと歌のアンサンブル キーボードでアレンジする 打楽器によるリズム伴奏の基礎	If we hold on together You Raise me up譜読み You Raise me upアルト譜読み You Raise me upソプラノ・アルト合わせ You Raise me upコードネーム確認 You Raise me upコードネームをもとにアレンジする よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ
2学期期末 (28)	打楽器によるリズム伴奏の基礎 打楽器によるリズム伴奏の基礎 メロディを前提としたリズム伴奏 メロディを前提としたリズム伴奏 アンサンブル コード4種循環による創作 コード5種循環による創作	よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ よく使われるリズムパターンをカホンで学ぶ 具体的な曲を例にリズム伴奏をつけてみる リズム伴奏にコードネーム伴奏をつける リズム・コードネーム・メロディを合わせてアレンジ メロディの創作 メロディの創作および伴奏づけ・経過音の導入
3学期 (16)	音楽史および音楽鑑賞	バルトの楽園(第九の日本輸入)
評価の 観点と 方法	内容的に高度な独唱曲を自分なりの表現で歌える。 ギターまたはピアノで、根拠を持った音楽表現ができる。 ギターまたはピアノに歌を加えて表現することができる。 編曲し、それを楽譜に起こすことができる。 音楽史・音楽の構成要素等の知識から考察を加えたレポートを提出できる。 以上の観点から総合的に評価を行う	

年間授業計画

科目名 (単位数)	幼児教育音楽(2)	教科書:
対象学年	3	副教材1:みんなピアノだい好き!
履修形態	選択	副教材2:
講座数	1	副教材3:
科目の目標	ピアノの基礎的な奏法を身に着ける。 コード伴奏理論を理解する。 ピアノで弾き歌いを行う。 基本的なリズム・伴奏をつけたり、身体表現ができるようにする。 他人と合奏・合唱・合同表現ができるようにする。	
学期(予定時数)	単元	授業内容の概要
1学期中間	読譜の基礎 ピアノの基礎 ピアノの基礎 ピアノと歌 ピアノと歌 1音コードネーム ソルフージュの基本	楽譜の基本的な読み方 基本的手・身体使い方 手の使い方・指使いの考え方 歌唱しながら同じ旋律をピアノで弾く 両手で同じ旋律を弾く コードネームの原理の理解、歌いながら1音伴奏 左手で各種一定のリズムをたたきながら歌う
1学期期末 (26)	指ぐりの考え方と実践 両手による指ぐり 唱歌にふりをつける 唱歌にふりをつける 実技テスト 言葉のイメージから音をつくる	鍵盤で指をくぐらせなければならない場合の基礎 左右両手で指をくぐらせる練習 子どもにとって教育的効果のあるふりのつけ方 メロディと1音伴奏および身振りの総合 唱歌のメロディと1音伴奏、ふりつけ 普通名詞を用いたことばによる形象・音による表象
2学期中間	#REF! キーボードコードネーム キーボードコードネーム キーボードコードネーム 言葉のイメージから音をつくる ギターの基礎 ギターの基礎	2音以上でコードネームの基本形を演奏する 2音以上のコードネームを弾きながら歌う 2音以上のコードネームとメロディを両手で弾く コードネーム・メロディを弾きながら歌う 身体表象によることばの表現・リズム表現 ギターの基本とスケール演奏 簡単なメロディの演奏
2学期期末 (28)	ギターの基礎 ギターによるコードネーム ギターによるコードネーム ギターによる歌い弾き ギターによる歌い弾き ピアノによる独奏曲 ピアノによる独奏曲 ピアノによる独奏曲	メロディを弾きながら歌う 基本的なコードネームの演奏 基本的なコードネームの演奏 ハミングで歌いながらギターのコードネームで伴奏 ハミングで歌いながらギターのコードネームで伴奏 進度に合った独奏曲の練習 進度に合った独奏曲の練習 進度に合った独奏曲の練習
3学期 (16)	メロディに即興で伴奏をつける メロディに即興で伴奏をつける	指定された曲のメロディに基づき、即興でピアノ伴奏 指定された曲のメロディに基づき、即興でピアノ伴奏
評価の 観点と 方法	正しい奏法でピアノを弾くことができる。 歌いながらピアノ伴奏を弾くことができる。 幼児教育に求められる音楽に合わせた身体表現ができる。 幼児教育に求められる正しい音程による歌唱・リズム表現ができる。 音楽の構成要素を理解した上で他人と合わせて演奏・表現できる。 以上の観点から総合的に評価を行う	

年間授業計画

成瀬高等学校 令和5年度 教科 芸術 科目 美術Ⅲ 年間授業計画

教科：芸術 科目：美術Ⅲ 単位数：2単位

対象学年組：第3学年

使用教科書：（高校美術3 日文

使用教材：（

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 学 期	オリエンテーション 描画演習 透視図法	一点透視図法・二点透視図法・三点透視図法を使って作図できる。表現したい内容にふさわしい透視図法を選択することができる。	一点、二点透視図法の違いについて理解し、作図することができる。→演習作品	26
	校内デッサン	透視図法を用いて、校内を表現することができる。自分なりのコンセプトを考えることができる。明暗のバランスを相対的に考えて構図を練ることができる。	下描き	
	校内デッサン	空間の構造を明確に組み立てることができる。	作品と制作姿勢の観察	
		鉛筆の色味を味わい、独自の表現を追求できる。		
	校内デッサン	質感の違い、空間の表現に実感が出るまで描き込むことができる。		
		画面全体を客観的に見て、バランス調整することができる。丁寧に細部まで描き込み、完成させることができる。	作品と制作姿勢の観察	
	自己評価 鑑賞	制作過程や完成作品に向き合い、誠実に振り返ることができる。	自己評価票	
	自由制作の準備	各自、自由制作に向けて、制作するもの、必要な材料・道具、作業の流れを確認する。必要なものについて購入、手配など準備を進める。	プリント、	
2 学 期	自由制作	作業開始	制作過程の観察	28
	自由制作	計画通りにいかない部分は軌道修正する。	作品	
	自由制作	仕上げに向けて、全体のバランス調整と細部の作り込みを繰り返し、完成度を上げていく。		
		完成	作品	
	展示作業と自己評価 まとめ	どんな展示方法がその作品にふさわしいか考え、工夫できる。	展示作業と自己評価票	
3 学 期				16